

東大阪中央ロータリークラブ

創立 昭和47年2月20日
例会日 毎週月曜日 12:30～
例会場所 シェラトン都ホテル大阪 3F
事務局 大阪市天王寺区石ヶ辻町2-8
〒543-0031 クレアツィオーネ上本町 704号
TEL : 06-6772-2320
FAX : 06-6772-2327
E-mail : hcrc@at.wakwak.com



会長 小川 高弘
会長ノミニー 宮田 照男
副会長 金子 勝信
幹事 中村 徹
会報委員長 瀧田 浩彦

Rotary Serving Humanity

人類に奉仕するロータリー

2016～2017 年度 国際ロータリー会長 ジョン F. ジャーム

第 2043 回例会 平成 29 年 3 月 13 日 (月曜日) 第 30 号

本日の例会 3月27日(月) 第3例会

- ◎ソング 「我等の生業」
- ◎卓話 『米山奨学会について』
担当：藤原 英夫会員
- ◎本日の献立 フランス料理

次回の例会 4月3日(月) 第1例会

- ◎卓話 「献血について」
- ◎ゲストスピーカー 大阪府赤十字血液センター
献血推進一部 推進課
主事 猪上 将之様
担当：長堀 哲矢会員

前回の例会 3月13日(月) 第2例会

会長挨拶 会長 小川 高弘

みなさん、こんにちは。

先週の金曜日、土曜日は2日間に渡り大変お疲れ様でした。この2日間、中嶋プロのご協力の下、チャリティーディナー&トークショー及びチャリティーゴルフが無事に終了することが出来ました。

今回、中嶋プロの温かいお人柄に触れることができ、参加して頂きました皆様も喜んで頂けたのではないかと思っています。

また、今回のチャリティーが成功裡に終えることができたのは、瀧田実行委員長をはじめ各会員の皆様、そして組織をあげてご協力頂きました、日本国際飢餓対策機構の皆様のご協力の賜だと思います。

この場をお借りしてお礼申し上げます。

有難う御座いました。

そして八尾ロータリークラブの参加された皆様が、口を揃えて「東大阪中央ロータリークラブさんは、素晴らしい奉仕活動を行っておられますね。当クラブも参考にさせていただきます。」と言って下さいました。

この一言が、非常に印象に残りましたし、今まで皆様と共に準備をしてきた苦勞が報われた瞬間でした。最後にもう一度、皆様本当に有難う御座いました。

出席報告

本日の会員数	23名
本日の出席者数	17名
本日の出席規定適用免除会員	10名
本日の出席率	84.21%
1月30日の修正出席率	88.53%

ニコニコ箱報告

- 小川会長 皆様、中嶋プロチャリティーイベント2日間お疲れ様でした。
- 中村幹事 皆様、中嶋プロをお招きしてのチャリティーイベントお疲れ様でした。この勢いでIMもがんばりましょう！
- 百済会員 中嶋常幸プロチャリティーゴルフ、お疲れ様でした
- 浅野会員 会員諸氏の智恵と力を出し合えば有意義な心に残る奉仕イベントが出来ることを確信致しました。
- 岩橋会員 中嶋プロのイベントにご協力下さり、有難うございました。中嶋プロはプロゴルファーであり、プロエンターテイナーでした。シーブケアへのご支援ありがとうございました。

- 1、3月16日は第3回情報集会です。多数のご出席をよろしくお願いいたします。
- 2、次週20日は春分の日で休会です。ご確認をお願い致します。

『コンゴ民主共和国のある村に生まれた希望』



〈自己紹介〉
ジェローム・カセバです。

2007年から
4年間東京の

国際基督教大学（ICU）で学び、その間に帰化して日本のパスポートを取得。大学院に進む前に日本国際飢餓対策機構（JIFH）で活動を開始し、大学院卒業後に母国のアフリカ、コンゴ民主共和国に帰国。同時に、JIFHの支援により「ハンズ・オブ・ラブ・コンゴ(Hands of Love Congo: HOLC)」を設立し、現在はHOLCの代表を務めています。

〈活動の紹介…Vision of Community:善隣共生の実現に向けて〉

コンゴ民主共和国（コンゴ共和国とは別）はアフリカで2番目に大きな国であり、その広大な国土には豊かな大地と豊富な鉱物資源があります。しかし、



そんな豊かな可能性を持つ国ですが、アフリカの中でも貧しい国も一つと数えられています。その1番の原因は「内戦、民族紛争」だと言えるでしょう。平和が脅かされ、生活が安定せず、人々の生活は悪化の一途をたどるばかりです。その中で、他のアフリカの国同様、コンゴでも多くの人々は外国の援助に頼り、生きていくことを余儀なくされてきました。しかし、同時にこの外国からの援助は、今後の人々に依存心を植え付け、常に助けを求める習慣を植え付けることにもなっていたのです。

そんな中で、JIFHから岩橋理事長を始め、スタッフと国際飢餓対策連合の会長であるランディー・ホーク氏がコンゴ民主共和国に来て、ルブンバシという第二の都市で、「VOCセミナー」を開催しました。3日間のセミナーに約70名の地域のリーダーが参加し、自立のために必要な「意識変革」の必要性和リーダーの役割を学ぶことができました。実はその中に、国内避難民であったパメラさん（男性）がいたのです。パメラさんは当時、内戦のため自分の故郷の村を追われ、約90家族と一緒にルブン

バシに避難して来ており、明日の生活もままならない状態でした。しかし、セミナーで意識改革をし、人に依存し頼るのではなく、自分にできることから始めることの大切さをしっかりと理解した彼は、そこから500キロほど離れたプウェトという町に避難民の数家族と移住し、そこで地元行政の許可を得て、土地を耕し始めました。小さな農地でトウモロコシなどの栽培を始め、その収穫は何年増加して生きました。やがて、彼の姿を見た人や彼からVOCセミナーで学んだコンセプトを聞いた人々も彼とともに地域を変革することにも取り組み、収穫は増加し、収入も生まれてくるようになりました。誰かがやってくれる、ではなく、自分を変え、できることから変え、今できることを始め、小さなことから変え始めていくときに、自ずと結果はついて来たのです。



様々な問題は当然起こって来ましたが、男尊女卑の文化習慣の中で、いつも男性が優位に立とうとする風潮がありましたが、男女別に畑を耕作してみると女性の畑の方が収穫が多く、女性が男性よりも良い働きをしました。その現実を前に、男性も女性の存在の大切さを認めざるを得なくなり、一致してこの改革に当たることができるようになったのです。

現在、パメラさんが始めたこの取り組みは、彼の村だけではなく、周辺の二つの村にも影響を及ぼし、リーダーが排出されVOC：善隣共生のビジョンが拡大しています。この人々に、外国の支援団体が巨額の支援金を投入したわけではありません。一人の人の意識の改革から始まりました。魚を与えるのではなく、魚の取り方を教えるという考え方。また、一人一人に可能性があり、小さなことを諦めないで行えば結果は出るのだということを学んでいます。

（岩橋文責）

